

北海道武蔵女子短期大学

三十一年度のあゆみ

同窓会

『25年のあゆみ』に同窓会の事を掲載してからもう五年がたちました。この間、少子化という社会現象にともない学生の数も以前のような増加の一途というわけにはいなくなりましたが、経済学科の新設もあり着実に会員数を増やし、平成六年には親子二代の同窓生が誕生しています。最近の活動は次のとおりです。

「同窓会文庫」 本学二十周年以来の事業として今年で十年目となり肩のこらない本を中心とし、学生の皆さんの好評を得ているようです。

「同窓会名簿」 同窓会創立二十五周年として全会員の名簿を平成六年に発行。この時の会員数は九一〇三名、教養学科一〜二六期生、六三九〇名、英文学科一〜一九期、二七一三名でした。同窓会が発足した昭和四四年の会員数は一五五名でしたから隔世の感があります。同窓会の名簿は、卒業の年にまず、同期会の名簿を配布します。そして五年ごとに全会員の名簿を発行することによって、できるだけ音信不通にならないよう心掛けています。

「同窓会創立二十五周年総会及び記念パーティー」 平成五年八月二一日京王プラザホテル札幌において、総会並びにパーティーが開かれました。出席者数約一四〇名、若い幹事の司会により楽しく弾んだパーティーとなりました。また記念として八鍬利郎先生の絵をお借りしたテレホンカードを作成し、出席者に配布しました。なお、後日テレカの原画を会にご寄贈いただき一同大変喜んでおります。この他、記念事業としてクラブ連合体へコピー機を寄贈しました。

「新校舎落成記念」 経済学科新設に伴う校舎増築に際し、二十五周年記念として絵画と鏡を寄贈しました。



25周年記念パーティーから



カフェ・リラ

これからの予定としては、同窓会の三十周年に向けて何か記念になる事をと、幹事一同思案中です。

(同窓会会長 松田純子)

カフェ・リラ

山門りえ



同窓会事務局

平成八年三月発行 同窓会事務局
同窓会では、平成二年度から大学祭に参加させていただき、学生部や大学祭実行委員の皆さんにお世話になりながら、「カフェ・リラ」と名付けた喫茶店を開店しています。お茶やお菓子の用意の他に、卒業生に大学祭の案内を送り、希望者が小さな「手作りの店」を出店するスペースを作っています。食器、花びんなどの焼物、パッチワーク、フラワーアレンジメント、皮工芸、編物、洋服など、毎年、様々なお店がカフェ・リラに彩りを添えています。

卒業すると、母校を訪れる機会は、なかなかありません。大学祭の日に、久々に校門をくぐり、なつかしい先生方にお逢いし、教室巡りをする、忘れていた在学中のエピソードが心に浮かび、学生時代に帰ったような気持ちになります。今回も、卒業後、十数年ぶりに初めて母校を訪れた卒業生が、校舎が増え、学内の様子が美しく変わっているのを目を見張っていました。

カフェ・リラが卒業生と母校を結び、在学生の皆さんとの楽しい出逢いの場となるよう、これからも楽しい店作りを考えていきたいと思っています。

(『むさし通信』 第16号より)

同窓会主要役員一覧

年度	役職名	名 誉 会 長	会 長	副 会 長
昭和44年度		長 尾 正 人	竹 並 紀美子①	折 登 夕 カ① 加 藤 まさ子①
45		長 尾 正 人	計 良 純 子①	東 田 かをる① 中 恵 子②
46		長 尾 正 人	林 良 江②	照 井 いつ子② 上 野 ひろ美③
47		長 尾 正 人	高 橋 京 子③	松 本 茂 子③ 下 中 真理子④
48		長 尾 正 人	高 橋 京 子③	遠 藤 恵 子④ 柳 瀬 啓 子⑤
49		長 尾 正 人	松田(計良)純子①	遠 藤 恵 子④ 柳 瀬 啓 子⑤
50		長 尾 正 人	松 田 純 子①	遠 藤 恵 子④ 柳 瀬 啓 子⑤
51		長 尾 正 人	松 田 純 子①	遠 藤 恵 子④ 柳 瀬 啓 子⑤
52		長 尾 正 人	松 田 純 子①	遠 藤 恵 子④ 柳 瀬 啓 子⑤
53		長 尾 正 人	松 田 純 子①	遠 藤 恵 子④ 柳 瀬 啓 子⑤
54		長 尾 正 人	松 田 純 子①	遠 藤 恵 子④ 柳 瀬 啓 子⑤
55		長 尾 正 人	松 田 純 子①	遠 藤 恵 子④ 柳 瀬 啓 子⑤
56		高 橋 萬 右 衛 門	松 田 純 子①	遠 藤 恵 子④ 高 橋 (柳瀬) 啓 子⑤
57		高 橋 萬 右 衛 門	松 田 純 子①	遠 藤 恵 子④ 高 橋 啓 子⑤
58		高 橋 萬 右 衛 門	松 田 純 子①	遠 藤 恵 子④ 高 橋 啓 子⑤
59		高 橋 萬 右 衛 門	松 田 純 子①	高 橋 啓 子⑤ 白 石 美保子⑬
60		高 橋 萬 右 衛 門	松 田 純 子①	高 橋 啓 子⑤ 菅 原 (白石) 美保子⑬
61		高 橋 萬 右 衛 門	松 田 純 子①	高 橋 啓 子⑤ 菅 原 美保子⑬ 泉 裕 美 子⑭
62		高 橋 萬 右 衛 門	松 田 純 子①	高 橋 啓 子⑤ 菅 原 美保子⑬ 泉 裕 美 子⑭
63		岡 茂 男	松 田 純 子①	高 橋 啓 子⑤ 菅 原 美保子⑬ 北 守 (泉) 裕 美 子⑭
平成元年度		岡 茂 男	松 田 純 子①	高 橋 啓 子⑤ 菅 原 美保子⑬ 北 守 裕 美 子⑭
2		岡 茂 男	松 田 純 子①	高 橋 啓 子⑤ 菅 原 美保子⑬ 北 守 裕 美 子⑭
3		岡 茂 男	松 田 純 子①	高 橋 啓 子⑤ 菅 原 美保子⑬ 奥 睦 子⑱
4		小 林 晴 夫	松 田 純 子①	高 橋 啓 子⑤ 菅 原 美保子⑬ 奥 睦 子⑱
5		小 林 晴 夫	松 田 純 子①	高 橋 啓 子⑤ 奥 睦 子⑱
6		小 林 晴 夫	松 田 純 子①	高 橋 啓 子⑤ 奥 熊 谷 美和子⑳
7		小 林 晴 夫	松 田 純 子①	高 橋 啓 子⑤ 奥 熊 谷 美和子⑳

同窓会基金一覧

年 度	クラブ活動への援助	図書・雑誌の寄贈	合 計
昭和61年度	280,000円 (10団体) 186,000円 (クラブ 連合体にコピー機)	888,901円(図書585冊) (雑誌13種) ※書架を含む	1,354,901円
昭和62年度	200,000 (8団体)	353,970 (図書169冊) (雑誌14種)	553,970
昭和63年度	200,000 (8団体)	310,820 (図書118冊) (雑誌14種)	510,820
平成元年度	245,000 (8団体)	315,837 (図書123冊) (雑誌14種)	560,837
平成2年度	230,000 (9団体)	355,244 (図書174冊) (雑誌14種)	585,244
平成3年度	240,000 (6団体)	359,783 (図書153冊) (雑誌14種)	599,783
平成4年度	220,000 (7団体)	404,338 (図書246冊) (雑誌13種)	624,338
平成5年度	412,000 (クラブ連合体にコピー 機)	408,934 (図書222冊) (雑誌13種)	820,934
平成6年度		406,347 (図書240冊) (雑誌13種)	406,347
平成7年度		398,672 (図書282冊) (雑誌13種)	398,672